

平成 30 年度
神栖市スポーツ施設利活用方策検討業務
調査報告資料
～宿泊施設～

平成 3 1 年 3 月

目次

調査の概要	2
(1) 対象者プロフィール	
I 章 宿泊施設概要	
(1) 築年数(竣工年)	2
(2) 宿泊施設客室数	2
(3) 最大収容可能宿泊者数	2
(4) 設備有無	3
(5) 集会スペースの数・収容人数	3
II 章 私有スポーツ施設概要	
(1) 私有スポーツ施設の広さと特徴	4
(2) 築年数(竣工年)	4
(3) 改修・設置・交換が必要と感じる設備	4
III 章 スポーツ合宿や大会利用施設の委託状況	
(1) 他施設依頼率	5
(2) 手配先施設	5
IV 章 年間宿泊状況	
(1) 最大繁忙月と最大閑散月	6
(2) 目的別宿泊者割合	6
(3) 最大繁忙月／閑散月目的別宿泊者割合	7
(4) 月別平均稼働率	7
(5) 月別スポーツ合宿とスポーツ大会の宿泊者数	8
(6) 月別スポーツ合宿とスポーツ大会の稼働率	8
(7) スポーツ合宿とスポーツ大会利用の年間売り上げシェア	8
V 章 施設のサービス提供状況	
(1) スポーツ合宿目的客に対し提供できている施設機能・サービス	9
(2) スポーツ合宿目的客のニーズが高い施設機能・サービス	10
(3) スポーツツーリズム魅力度	11
(4) スポーツツーリズム活性化の手段	11
(5) スポーツツーリズム推進のために取り組むべきもの	12

調査の概要

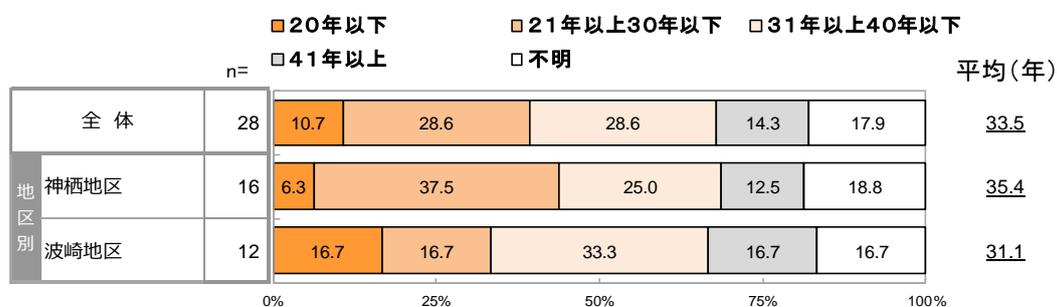
<旅館調査概要>

- ・対象者：神栖市内の旅館組合加入施設（神栖旅館業組合、波崎旅館業協同組合）
- ・手法：調査票郵送、調査員による訪問回収
- ・期間：平成30年11月14日～12月17日
- ・回答数：28施設（神栖地区16/波崎地区12）

I章 宿泊施設概要

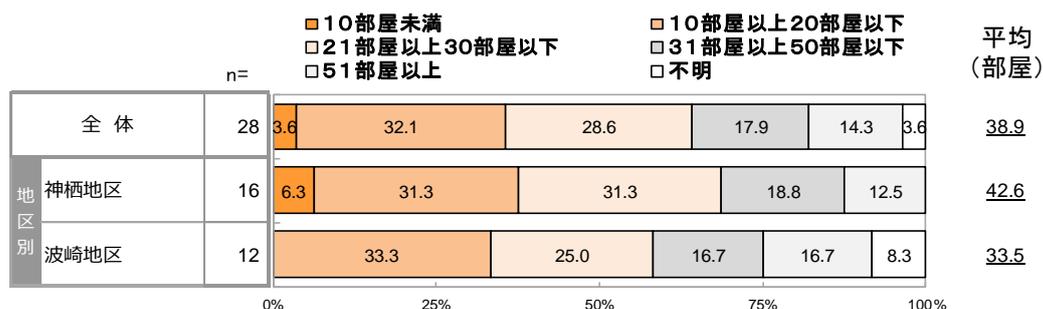
(1) 築年数（竣工年）

今回回答宿泊施設の築年数をみると、21年～40年で約半数を占めており、平均築年数は33.5年となる。



(2) 宿泊施設客室数

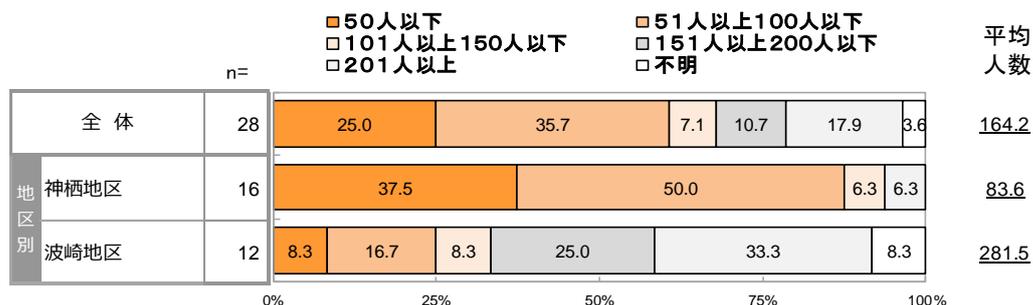
宿泊施設の規模をみると、客室数は10～30部屋の宿泊施設が6割を占める。



(3) 最大収容可能宿泊者数

最大収容可能宿泊者数は51人以上100人以下がボリュームゾーン。

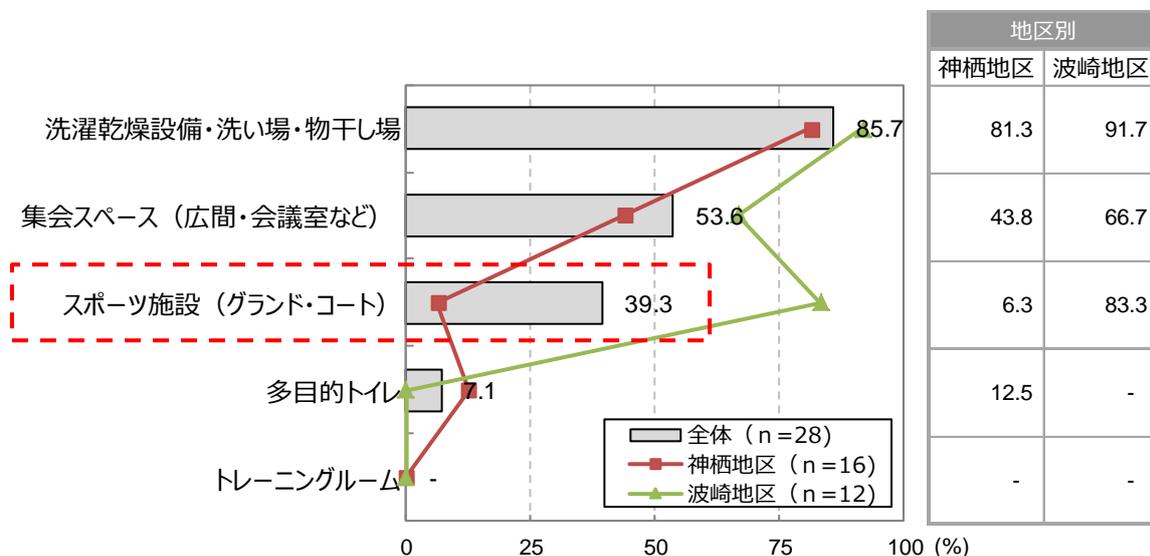
地区別では波崎地区の方がやや規模の大きな施設の比率が高い。



(4) 設備有無

宿泊施設付帯施設・設備の有無をみると、「洗濯乾燥設備・洗い場・物干し場」は8割以上の施設に付帯している。

スポーツ施設を所有しているのは39.3%。波崎地区では83.3%が所有。



(5) 集会スペースの数・収容人数

集会スペース所有施設の保有部屋数をみると、1部屋が4割を占めて最も高い。

収容人数は50人以下が最も多いが、201人以上の大部屋の所有施設もみられる。

n=	部屋数					不明	平均 (部屋)
	1部屋	2部屋	3部屋	4部屋以上			
全体	15	40.0	13.3	6.7	13.3	26.7	3.18
地区別 神栖地区	7	57.1	-	-	14.3	28.6	4.4
地区別 波崎地区	8	25.0	25.0	12.5	12.5	25.0	2.2

n=	収容人数					不明	平均 (人)
	50人以下	50人以上	100人以上	200人以上	200人以上		
全体	15	40.0	20.0	-	6.7	20.0	13.3
地区別 神栖地区	7	57.1	14.3	-	-	14.3	14.3
地区別 波崎地区	8	25.0	25.0	-	12.5	25.0	12.5

Ⅱ章 私有スポーツ施設概要

(1) 私有スポーツ施設の広さと特徴

今回回答の宿泊施設所有スポーツ施設をみると、「サッカー」「フットサル」「野球」グラウンドの所有となる。面数としてはサッカーグラウンドが最も多く、ベンチ・観客席の設備なども付帯率も高い。

該当総数	n=	素材別面数					付帯設備のある面数				
		(人工芝入り)	天然芝	クレー舗装	全天候型舗装	その他	ベンチ専用	固定観客席	給排水設備	夜間照明	
サッカー	11	4.0	2.7	3.6	-	-	-	3.3	4.0	3.0	-
フットサル	11	2.0	3.0	2.0	-	-	1.0	-	-	-	3.0
テニス	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
野球	11	1.7	-	1.6	-	-	-	2.0	-	1.7	-
ソフトボール	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(面)

(2) 築年数（竣工年）

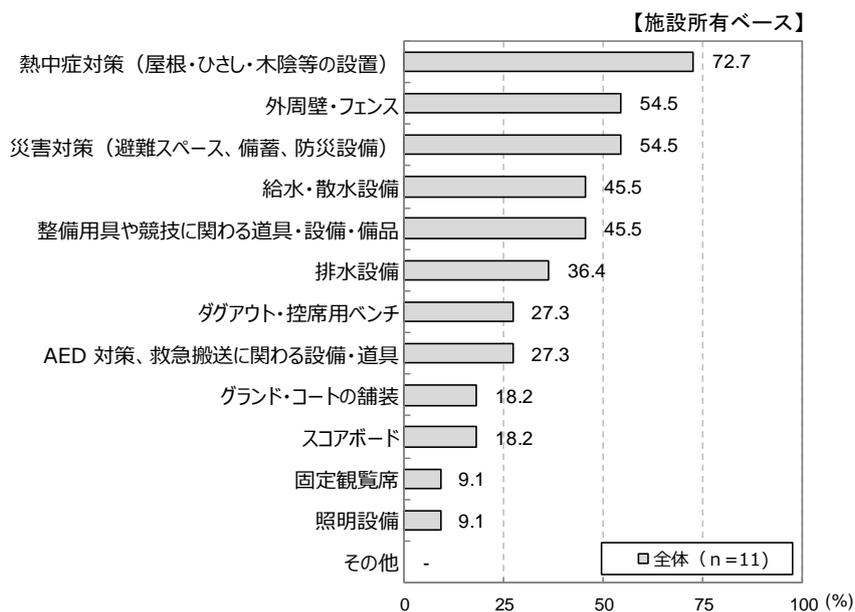
スポーツ施設の築年数は11年～20年以下が最も多く、平均23.3年。

n=	築年数					平均(年)
	10年以下	10年以上 20年以下	20年以上 30年以下	30年以上	不明	
全体	11	-	36.4	27.3	9.1	27.3

(%)

(3) 改修・設置・交換が必要と感じる設備

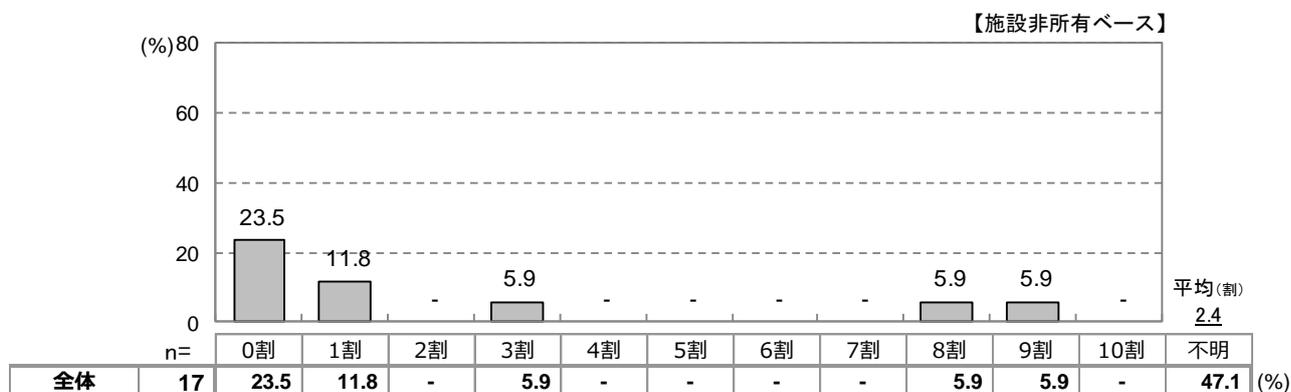
改修・設置・交換が必要と感じる設備は、「熱中症対策」(72.7%)が最も高い。次いで「外周壁・フェンス」「災害対策」(54.5%)が続く。



Ⅲ章 スポーツ合宿や大会利用施設の委託状況

(1) 他施設依頼率

スポーツ合宿やスポーツ大会利用の宿泊団体のうち、手配を依頼する割合は、1割以下と8割以上に二分されている。



(2) 手配先施設

手配先で多い施設は、「神栖海浜サッカー場」「神栖総合公園サッカー場」とサッカー施設が上位となる。

【施設非所有ベース】

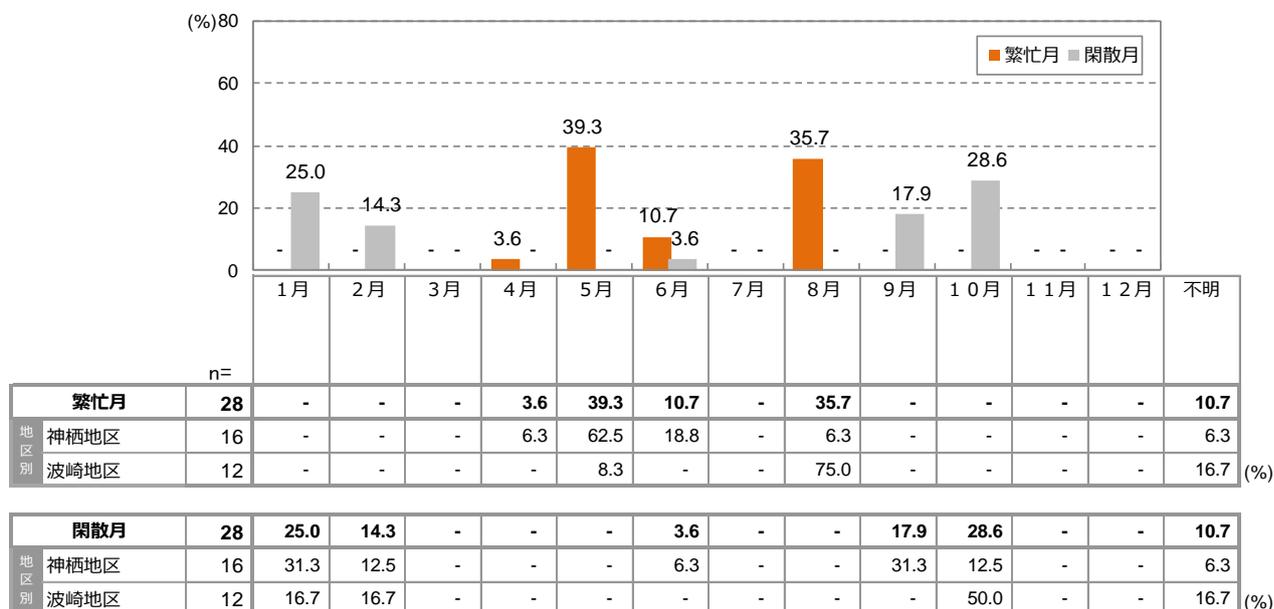
n=	神之池			海浜					若松				
	神栖市武道館	神之池野球場	神之池庭球場	多目的広庭球場	神栖市海浜運動公園	神栖海浜球場	神栖海浜サッカー場	神栖海浜庭球場	神栖総合公園サッカー場	場	神栖総合公園フットサル	若松多目的広場	矢田部サッカー場
全体	17	5.9	5.9	5.9	11.8	11.8	17.6	11.8	17.6	5.9	5.9	5.9	11.8

(%)

IV章 年間宿泊状況

(1) 最大繁忙月と最大閑散月

宿泊施設の繁忙月は5月と8月。地区別にみると、神栖地区は5月、波崎地区は8月に大分される。一方、閑散月は、9～10月、1～2月と秋冬シーズンとなる。

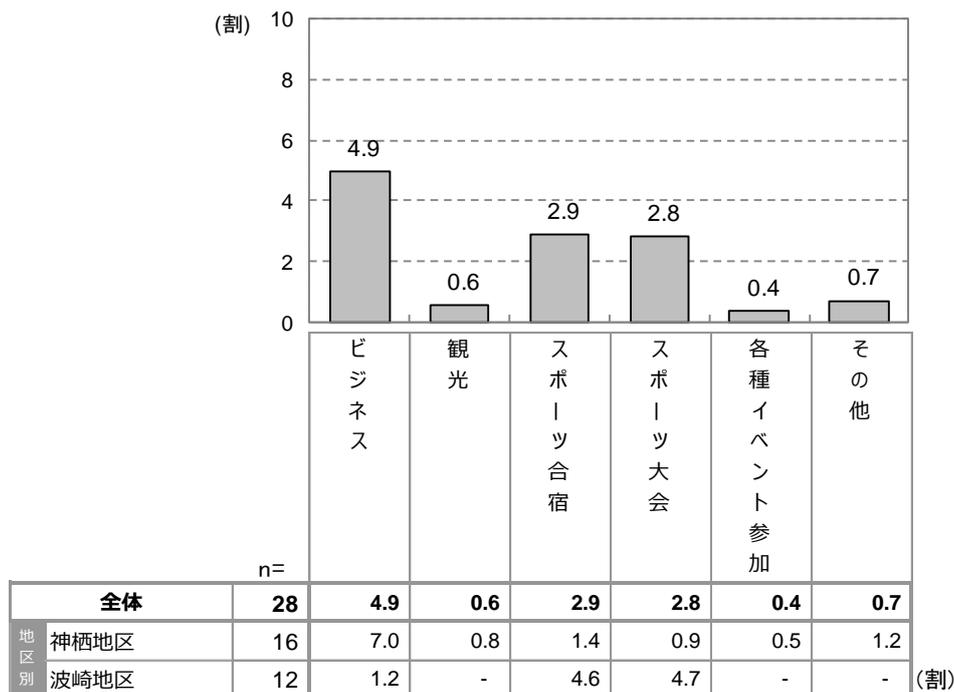


(2) 目的別宿泊者割合

年間の宿泊者の目的別割合は、繁忙月同様、地区により異なる。

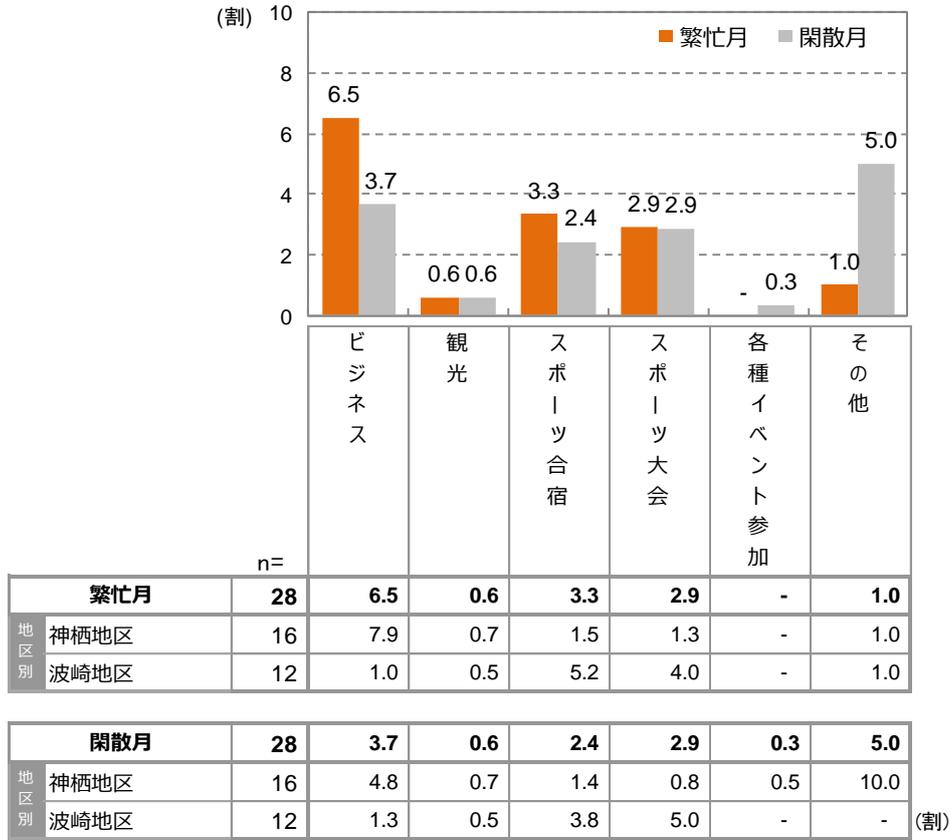
神栖地区は「ビジネス」が平均7割と高い。

一方、波崎地区は「ビジネス」は1割程度に留まり、「スポーツ合宿/大会」が4割ずつとなる。



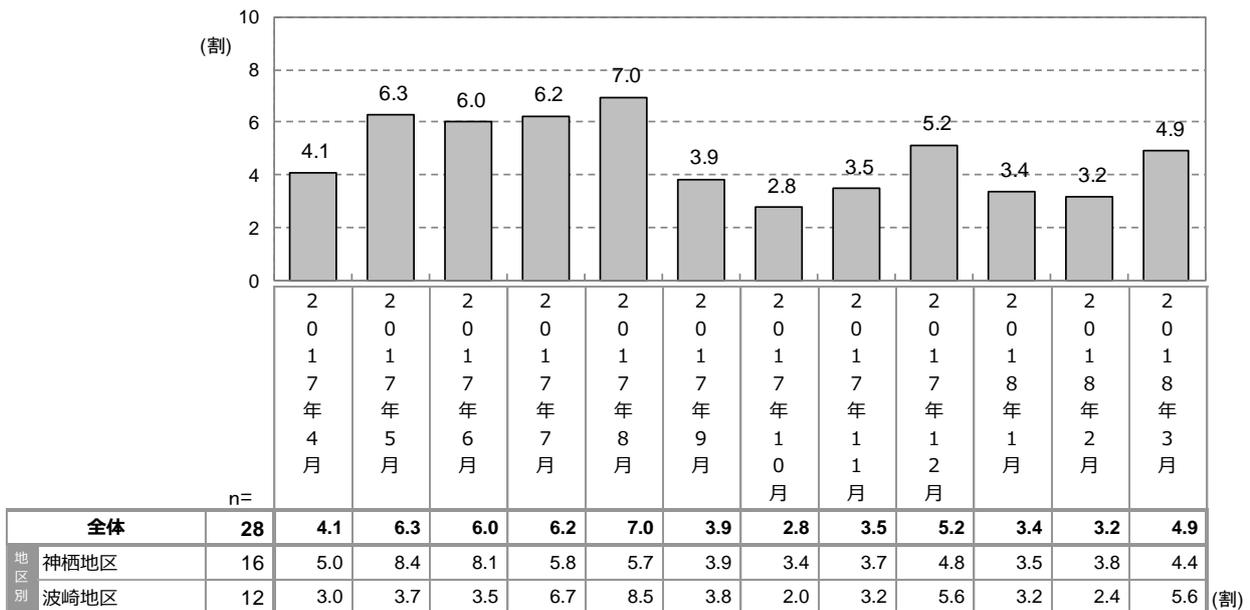
(3) 最大繁忙月／閑散月目的別宿泊者割合

最大繁忙月／繁忙月の宿泊目的をみても、神栖地区は「ビジネス」、波崎地区は「スポーツ合宿/大会」が主要目的であることに変化はなく、目的の平滑化が今後の課題となる。



(4) 月別平均稼働率

直近1年間の平均稼働率をみると、5～8月が繁忙期であることが分かる。地区別にみると、神栖地区は5～6月、波崎地区は7～8月が最も稼働率が高い。

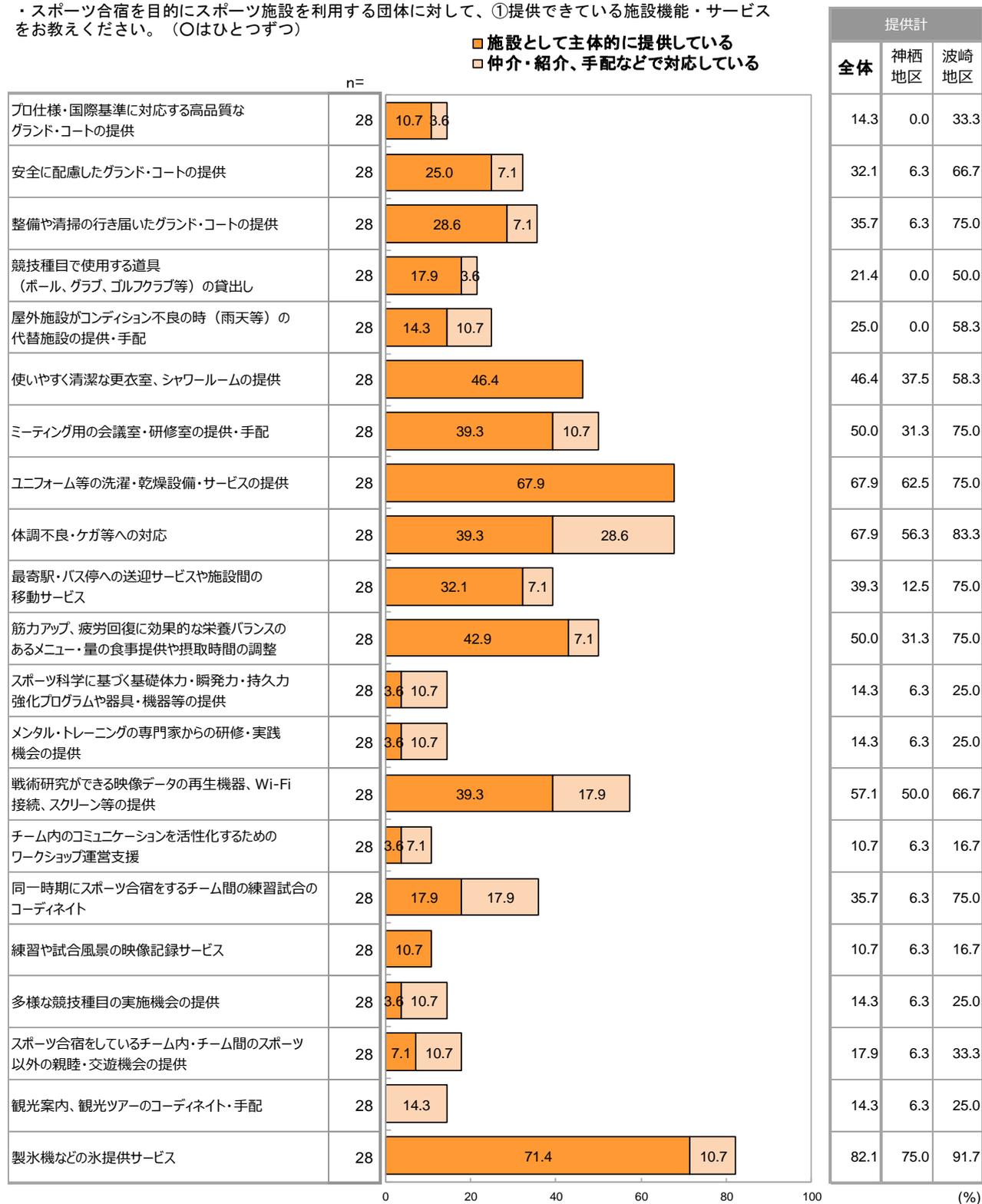


IV章 施設のサービス提供状況

(1) スポーツ合宿目的客に対し提供できている施設機能・サービス

スポーツ合宿目的客に対し提供できている施設機能・サービスをみると、「製氷機などの氷提供サービス」「ユニフォーム等の洗濯・乾燥設備・サービス」は提供できている施設が多い。スポーツ合宿/大会の宿泊シェアの高い波崎地区は提供できているサービスの種類が多い。

・スポーツ合宿を目的にスポーツ施設を利用する団体に対して、①提供できている施設機能・サービスをお教えてください。(〇はひとつずつ)

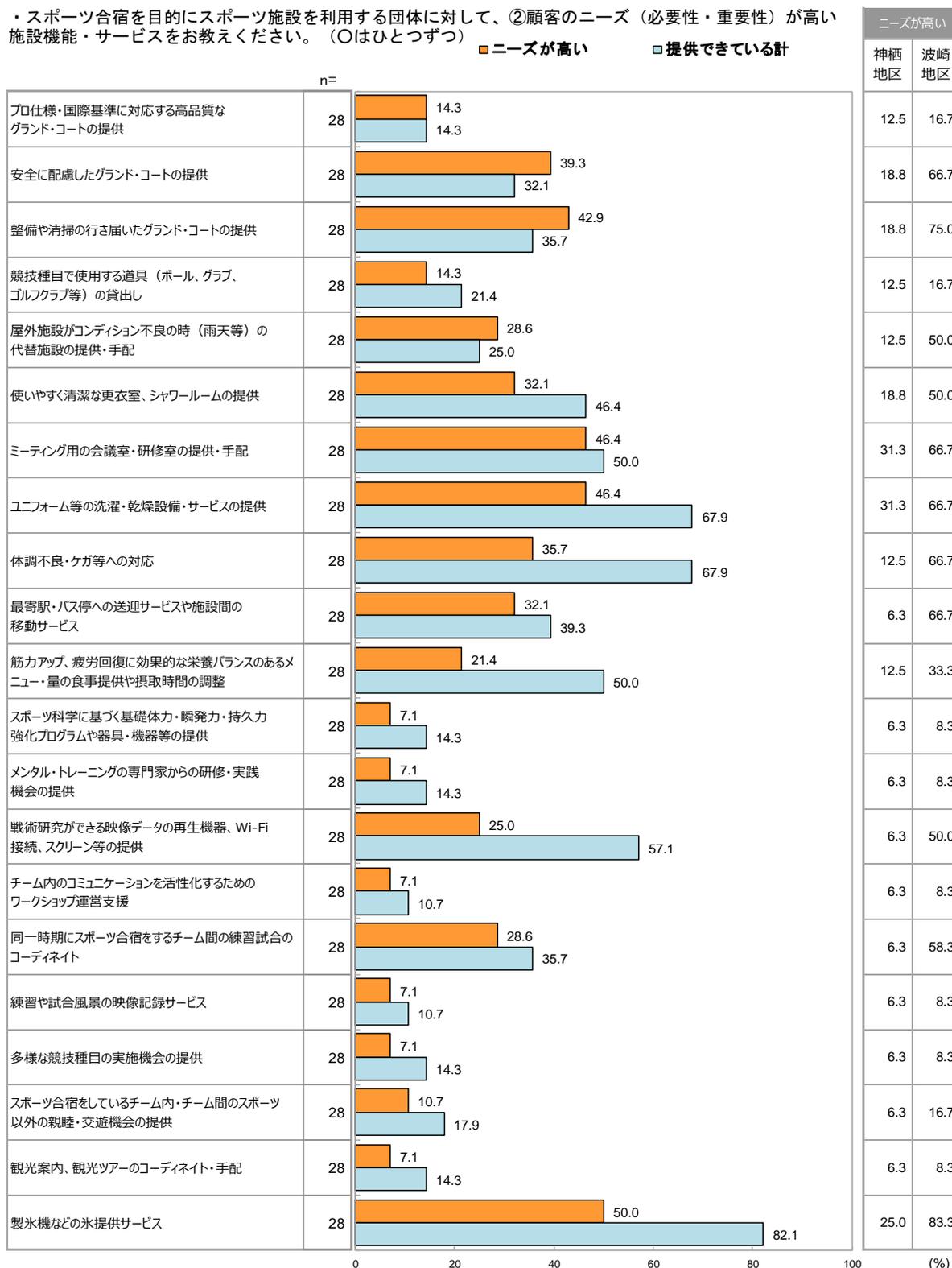


(2) スポーツ合宿目的客のニーズが高い施設機能・サービス

顧客のニーズ（必要性・重要性）が高い施設機能・サービスは、「ミーティング用の会議室・研修室の提供・手配」「ユニフォーム等の洗濯・乾燥設備・サービスの提供」がトップ2となる。

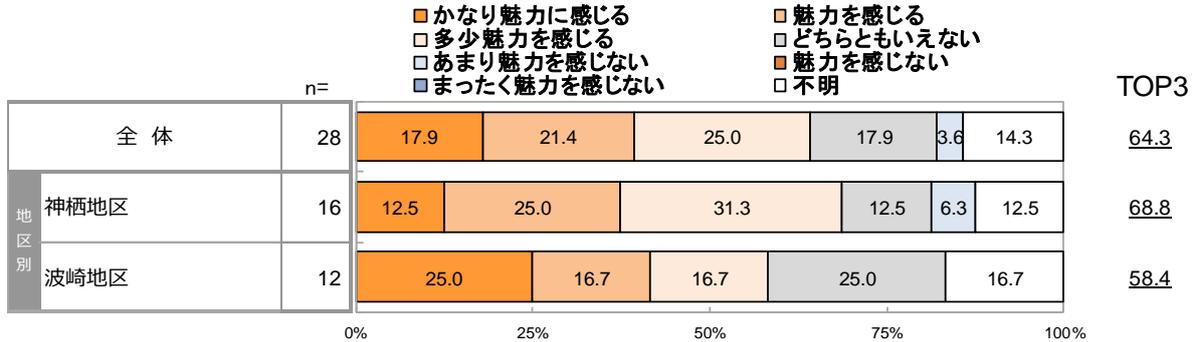
提供できているサービスと比べると、「安全に配慮したグラウンド・コートの提供」「整備や清掃の行き届いたグラウンド・コートの提供」「屋外施設がコンディション不良の時（雨天等）の代替施設の提供・手配」はニーズに比べ、提供が十分とは言えないサービスとなる。

・スポーツ合宿を目的にスポーツ施設を利用する団体に対して、②顧客のニーズ（必要性・重要性）が高い施設機能・サービスをお教えてください。（〇はひとつずつ）



(3) スポーツツーリズム魅力度

スポーツツーリズム魅力度は「かなり魅力を感じる」12.5%、ポジティブな評価計は64.3%。
現状、スポーツ合宿/大会の受け入れが少ない神栖地区宿泊施設も魅力を感じる施設は多い。

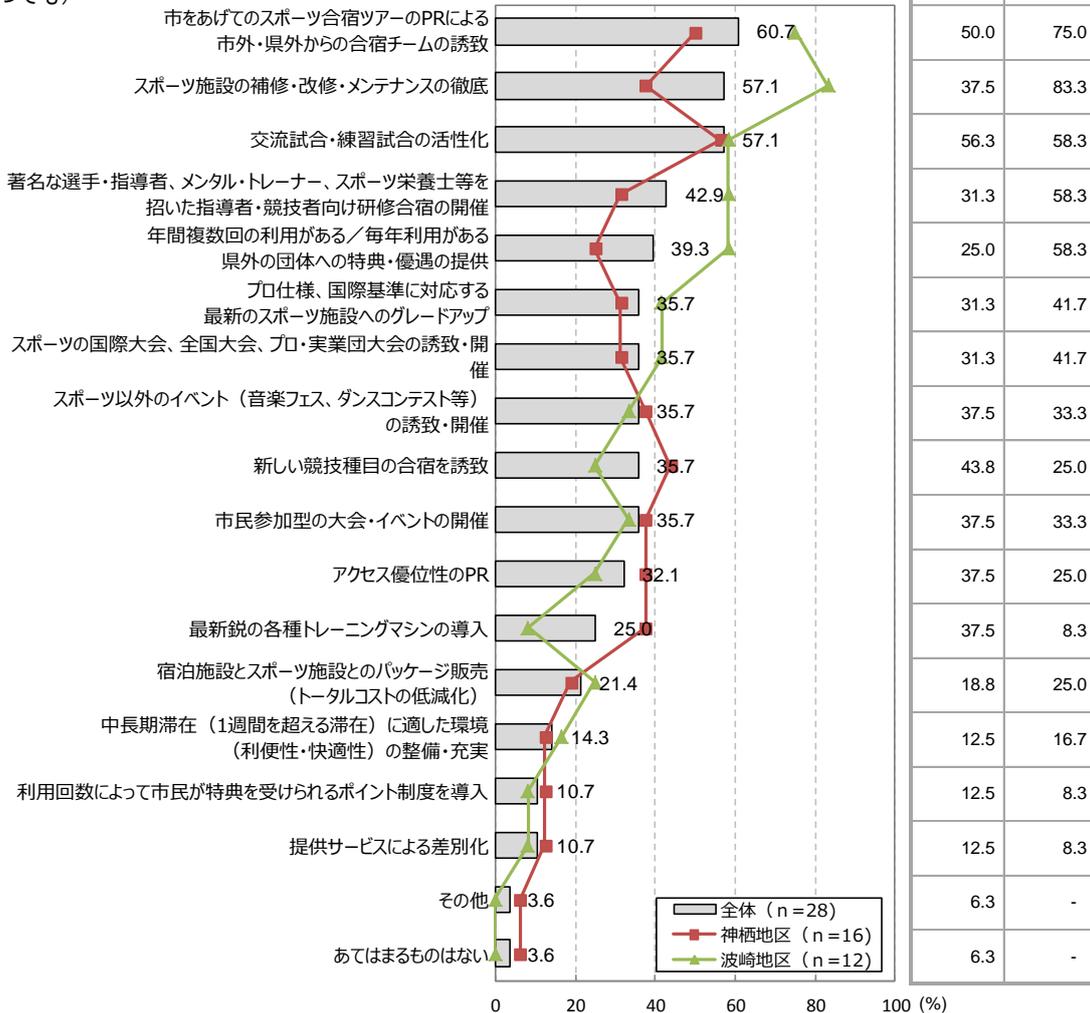


(4) スポーツツーリズム活性化の手段

スポーツツーリズム活性化の手段は、「市をあげてのスポーツ合宿ツアーのPRによる市外・県外からの合宿チームの誘致」が60.7%で最も高い。「スポーツ施設の補修・改修・メンテナンスの徹底」「交流試合・練習試合の活性化」(57.1%)が続く。

スポーツ合宿/大会の受け入れの多い波崎地区は、8割以上が「スポーツ施設の補修・改修・メンテナンスの徹底」を挙げている。

・神栖市のスポーツツーリズムを活性化するために有効と思われるものをすべて教えてください。(〇はいくつでも)



(5) スポーツツーリズム推進のために取り組むべきもの

スポーツツーリズム推進のために優先順位が高いものとしては、「スポーツフェスティバル等のイベント開催」「大型スポーツ大会などの誘致」といったイベントの誘致が最も高い。

次いで「設備改修等への補助」が続く。「設備改修等への補助」は波崎地区ではイベント誘致同様に優先度が高いと認識されている。

・今後、神栖市がスポーツツーリズムを推進するにあたり取り組むべきものとして、優先順位が高いと思われる方策について、3つまで教えてください。

